

執筆者紹介

多和田 葉子（タワダ ヨウコ）

早稲田大学文学部卒。1982年、ドイツ・ハンブルクへ。ハンブルク大学大学院修士課程修了。チューリッヒ大学大学院博士課程修了。1991年「かかとを失くして」で群像新人賞、1993年「犬婿入り」で芥川賞、2000年『ヒナギクのお茶の場合』で泉鏡花賞、2002年『球形時間』でドゥマゴ文学賞、2003年『容疑者の夜行列車』で谷崎潤一郎賞、伊藤整文学賞、2011年『尼僧とキューピッドの弓』で紫式部文学賞、『雪の練習生』で野間文芸賞、2013年『雲をつかむ話』で読売文学賞と芸術選奨文部科学大臣賞（文学部門）を受賞。近著に『献灯使』などがある。日独二ヶ国語で作品を発表しており、1996年にドイツ語での作家活動によりシャミッソー文学賞、2016年にはドイツで最も権威のある文学賞のひとつクライスト賞を受賞。2006年よりベルリン在住。

Robert CAMPBELL（ロバート キャンベル）

国文学研究資料館長

近世・近代日本文学が専門で、とくに19世紀（江戸後期～明治前半）の漢文学と、漢文学と関連の深い文芸ジャンル、芸術、メディア、思想などに関心を寄せている。テレビでMCやニュース・コメンテーター等をつとめる一方、新聞雑誌連載、書評、ラジオ番組企画・出演など、さまざまなメディアで活躍中。

ニューヨーク市生まれ。カリフォルニア大学バークレー校卒業（B.A. 1981年）。ハーバード大学大学院東アジア言語文化学科博士課程修了、文学博士（M.A. 1984, Ph.D. 1992年）。

1985年に九州大学文学部研究生として来日。同学部専任講師（1987年、国語国文学研究室）、国立・国文学研究資料館助教授（1995年）を経て、2000年に東京大学大学院総合文化研究科助教授に就任（比較文学比較文化コース〔大学院〕、学際日本文化論〔教養学部後期課程〕、国文・漢文学部会（同学部前期課程）担当）。2007年から同研究科教授。2017年4月から現職。

主な編著に、『ロバート キャンベルの小説家神髄 ― 現代作家6人との対話 ―』（NHK出版）、『読むことの力 ― 東大駒場連続講義』（講談社）、『海外見聞集』（岩波書店）、『漢文小説集』（岩波書店）、『江戸の声 ― 黒木文庫でみる音楽と演劇の世界 ―』（駒場美術博物館）、『Jブンガク ― 英語で出会い、日本語を味わう名作50 ―』（東京大学出版会）、「電子版黒木文庫」などがある。

河野 至恩（コウノ シオン）

上智大学国際教養学部准教授

プリンストン大学大学院比較文学部博士課程修了。上智大学大学院グローバル・スタディーズ研究科・国際教養学部准教授。専門は比較文学・日本近代文学。

編著に『日本文学の翻訳と流通 近代世界のネットワークへ』（村井則子と共同編集。勉誠出版、2018年）。単著に『世界の読者に伝えるということ』（講談社現代新書、2014年）。主な論文に「一九一〇年代における英語圏の日本近代文学—光井・シンクレア訳『其面影』をめぐって」（河野・村井編『日本文学の翻訳と流通 近代世界のネットワークへ』勉誠出版、2018年）、「Mori Ōgai and the 'Literature of the World'. Reading *Hyaku monogatari* through the Eyes of the Foreign Reader” (Klaus Kracht (ed.), “*Ōgai*” — *Mori Rintarō. Begegnungen mit dem japanischen homme de lettres* (Harrassowitz, 2014)), “The Rhetoric of Annotation in Mori Ōgai’s Historical Fiction and *Shiden* Biographies” (*Journal of Japanese Studies*, 32:2, 2006) など。主な訳書に、Hiroki Azuma, *Otaku: Japan’s Database Animals* (Jonathan E. Abel と共訳。University of Minnesota Press, 2009)、アルバート・ウェント『自由の樹のオオコウモリ』（日本経済新聞社、2006年）。最近の関心領域は日本文学の翻訳史、翻訳理論、世界文学としての日本文学など。

CAPPONCELLI Luca (カッポンチェッリ ルカ)

イタリア国立カターニア大学 日本語・日本文学講師

ナポリ・オリエンターレ大学を卒業し、國學院大學で修士及び博士（文学）の学位を取得。現在、イタリア国立カターニア大学で日本語及び日本文学の講師として勤めている。研究範囲は与謝野晶子、石川啄木、萩原朔太郎を中心とする日本近代詩である。近年は、日本近代詩における身体表現と近代化に伴うボディ・ポリティックスとの関連を探究を行っている。与謝野晶子の『みだれ髪』伊訳と解説『*Yosano Akiko. Midaregami*』（Aracne Editrice, 2017年10月）、『日本近代詩の発展過程の研究』（翰林書房、2018年2月）等、イタリアと日本で多数の学術論文や書籍を発表している。

松本 海（マツモト カイ）

早稲田大学文学部文学研究科博士後期課程

早稲田大学文学部卒業、現在早稲田大学文学部文学研究科博士後期課程三年。中上健次作品に現われる「老婆」について研究。

○論文

- ・「中上健次・短篇小説「天鼓」における古典受容：雑誌『風景』での掲載をふまえて」（『牛王』10号、2016年）
- ・「初期中上健次の文学的基盤の確立——『文藝首都』を中心に——」（『繡』第25号、2012年）

ROEMER Maria (ロエマー マリア)

ハイデルベルグ大学・クラスター・オブ・エクセレンス『グローバルな分脈におけるアジアとヨーロッパ』・博士後期課程3年

2003-2004年、ベルリン自由大学修士課程の時、早稲田大学文学部・大学院に留学

する。2009年修士号（比較文学・日本学）を取得してから当大学のクラスター・オブ・エクセレンス『感情の多様な言語』で博士課程に進む。2013-2014年、コーネル大学に留学する。2014年以来ハイデルベルグ大学・クラスター・オブ・エクセレンス『グローバルな文脈におけるアジアとヨーロッパ』の博士課程に在籍（修了予定2018年12月）。研究分野は比較文学、比較文化、多文化（トランスカルチュラル）・グローバリゼーション。

主な論文：「Precarious Attraction: Abe Kazushige's Individual Projection Post-Aum」Kristina Iwata-Weickgenannt・Roman Rosenbaum編『Visions of Precarity in Japanese Popular Culture』Routledge、2015年、86-101頁。

MANIERI Antonio（マニエーリ アントニオ）

イタリア国立ナポリ東洋大学・研究員

日本言語文化学博士（大東文化大学、2012年）。文献学・古辞書学・奈良文学・和漢比較文学。

主な論文に「『和名類聚抄』『牛馬毛』門と奈良朝の下級官人層―『漢語抄』『楊氏漢語抄』『辨色立成』をめぐって」（『東アジア比較文化研究』第11号、2012年）、『*Hitachi no kuni fudoki. Cronaca della provincia di Hitachi e dei suoi costumi*』（『常陸国風土記』イタリア語訳、2013年）、「『本朝文粹』における異論」（伊文、マリア・キアラ・ミリオーレ、アントニオ・マニエーリ、ステファノ・ロマニョーリ編『日本における異論文学』、2016年）、「イタリアにおける記紀の翻訳とその受容」（『万葉古代学研究年報』第15号、2017年）などがある。

張 硯君（チョウ ケンクン）

大阪大学大学院言語文化研究科博士後期課程三年

中国大連外国語大学日本語学科卒業。日本政府奨学金研究留学生として日本に留学し、大阪大学大学院言語文化研究科博士後期課程に在学中。日本古典文学専攻。現在は、抄物を中心として中世における漢文学・学問の研究に取り組んでいる。

論文に「白楽天文殊化身説の生成と展開」（『白居易研究年報』第十七号、2016年12月）、「三条西実隆の知的関心―経学関係の漢籍を中心に―」（『問谷論集』第十一号、2017年6月）などがある。

幾浦 裕之（イクウラ ヒロユキ）

早稲田大学大学院教育学研究科博士後期課程

2017年4月～6月、2018年1月～3月UCLA the Department of Asian Languages & Culturesへ、Visiting Graduate Researcherとして留学。専門は中世和歌文学、日本書誌学。御子左家の女房歌人を中心に、和歌、散文作品を書誌学、ジェンダーの視点から研究。主要論文は、田淵句美子・中世和歌の会共著『民部卿典侍集・土御門院女房全釈』（風間書房2016年）、「枳型本『阿仏の文』（広本）解題・翻刻」（『早稲田大学大学院教育学研究科紀要別冊』25号-1 2017年9月）。

陳 夢陽（チン ムヨウ）

早稲田大学大学院文学研究科 演劇映像学コース博士課程

南京林業大学出身。北京外国語大学日本学研究中心修士課程修了後、国費外国人留学生として来日。現在、早稲田大学大学院文学研究科、演劇映像学コース博士課程在学中。研究分野は並木正三を代表劇作家とする18世紀後半の歌舞伎である。

MCGEE Dylan（ミギー デイラン）

名古屋大学人文学研究科准教授

研究分野は近世日本文学・出版文化・比較文学。単著論文に「名古屋戯作と貸本屋大惣」（PAJLS）25号、2017年10月）、「樹芽田楽の洒落本から見るお酒と酔い」（『酔いと文化』勉誠出版、2017年）、「平出順益の『代睡漫抄』から窺える抜粋抄録と大惣本の貸出」（『言語文化論集』第37巻1号、2015年10月）などがある。

廖 秀娟（リョウ シュウケン）

台湾・元智大学応用外国語学科 准教授

1997年交流協会奨学生として大阪大学に留学。2003年大阪大学大学院文学研究科博士後期課程修了、博士号取得。研究分野は昭和十年代文学、日本統治期台湾文学。主な論文：

「太宰治「作家の手帖」論—〈とんちんかん〉を狙う語り—」『語文』106・107号、2017

「歌われた理想的な銃後の女性像—〈軍歌〉を媒介として—」『東アジアにおけるトランスナショナルな文化の伝播・交流—メディアを中心に』日本學研究叢書22号、台湾大学出版、2016

「太宰治「東京だより」論—作品のアイロニー性から—」『解釈』61巻7.8月号、2015

第41回国際日本文学研究集会プログラム

平成29年11月11日(土)

開会挨拶

ロバート キャンベル (国文学研究資料館長)

第1セッション

▼研究発表

- ①朔太郎のセンチメンタリズムにおける「身体」の意味を考える

CAPPONCELLI Luca (イタリア国立カタニア大学講師)

- ②中上健次「浄徳寺ツアー」における〈語り〉の試み

松本 海 (早稲田大学大学院博士課程)

- ③多文化的なテキスト:

阿部和重の初期作品における「エクリチュール」をめぐる

ROEMER Maria (ハイデルベルグ大学博士課程)

【対談】

多和田 葉子 × ロバート キャンベル

「蛸、出て来い。」ついそちらへ歩いて行ってしまう人々の物語

ディスカッサント 河野 至恩 (上智大学准教授)

ポスターセッション (11月11日～12日)

●大地としての生命力

—三島由紀夫古典主義期の作品における「下層への動き」—

膝 夢激 (東京外国語大学博士課程)

●狂歌と彗星 —『古今夷曲集』考

大内 瑞恵 (東洋大学非常勤講師)

●西周著「百学連関」にみる芸術理解について

江崎 公子 (元国立音楽大学准教授)

●法華寺蔵『七草絵巻』考 —孝子譚の側面から—

横山 恵理 (大阪工業大学特任講師)

平成29年11月12日(日)

第2セッション

▼研究発表

- ④古代日本における地理書 ～『和名類聚抄』所引『宜都山川記』をめぐって
MANIERI Antonio (イタリア国立ナポリ東洋大学研究員)
- ⑤林宗和聞書抄『大学抄』の生成とその価値
—講述聞書における校合の実態をめぐって—
張 硯君 (大阪大学大学院博士課程)
- ⑥UCLA 梅尾コレクションの研究 覚城院旧蔵書の視点から
幾浦 裕之 (早稲田大学大学院博士課程)

ショートセッション

- ①男が詠む「待恋」—『百人一首』翻訳論
KÁROLYI Orsolya (同志社女子大学大学院博士課程)
- ②蕉風俳諧における「恋句」の特色
金 美京 (筑波大学大学院博士課程)

第3セッション

▼研究発表

- ⑦並木正三の作品における人物造形
陳 夢陽 (早稲田大学大学院博士課程)
- ⑧貸本屋大惣の改装表紙から見る文化・文政・天保期間の合巻の仕入れ状況
McGEE Dylan (名古屋大学准教授)
- ⑨戦時下の小説にみる〈歌〉の役割 —<12月8日小説群>を中心に—
廖 秀娟 (台湾元智大学准教授)

◆第41回国際日本文学研究集会 参加者数のべ160名(発表者含む)

平成29年度国際連携委員会委員名簿

委員長	板 坂 則 子	専修大学文学部教授
委 員	坂 本 信 道	京都女子大学文学部教授
委 員	櫻 井 陽 子	駒澤大学文学部教授
委 員	深 沢 眞 二	和光大学表現学部教授
委 員	河 野 至 恩	上智大学国際教養学部准教授
委 員	中 村 と も え	静岡大学教育学部准教授
〈館内〉		
副委員長	齋 藤 真麻理	研究部教授・国際連携部長
委 員	谷 川 恵 一	副館長（研究担当）
委 員	海 野 圭 介	研究部准教授
委 員	加 藤 聖 文	研究部准教授
委 員	木 越 俊 介	研究部准教授
委 員	グヴァン・ディディエ	研究部准教授
委 員	野 網 摩利子	研究部准教授